

ふるさと歴史アラカルト

系譜からみる武士の仕事

歴史を考えるとときに、家の系譜をひもといてみると、新たな気付きを得ることがあります。今回は、江戸時代の岩国領で約50家と最も数の多かった森脇家のうち、森脇主税家の系譜に焦点を当てたいと思います。

森脇家は、吉川家が駿河国（現在の静岡県東部）に地盤を置いていた鎌倉時代より仕えてきた古参の家です。家の伝承によれば、先祖が駿河国にある「木枯しの森」の周辺に住んでいたことから森脇姓を名乗ったとされています。

森脇家のうち、慶長5（1600）年前後に活躍した武将・森脇春貞の時に分家したのが森脇主税家です。春貞は、戦国時代の毛利家が勢力を拡大させていく様子を伝える「森脇飛騨守覚書」を著した春方の次男に当たります。春貞が関わった仕事の一つに、自身の主君・吉川元春の隠居所（吉川元春館跡、現在の広島県山県郡北広島町）の築造があります。その際に元春より春貞へ出された指示書が残っており、現場に

おいて築造に深く関わったことが伺えます。

さらに、春貞より六代後の子孫に当たるのが、江戸時代中期頃に岩国領へ甲州流軍学（武田信玄の戦術や築城法などを研究する学問）をもたらし、良材です。良材は軍学を修めたのち、森脇家に養子として迎え入れられました。良材は多くの築城法に関する入門書や城の縄張り（平面配置図）を作成し、岩国領における築城法の研究を深化させました。

良材より三代後の子孫に主税がいます。主税は、甲州流軍学の教養があったことから慶応2（1866）年5月、幕府と長州藩との戦闘が差し迫る状況下で、城山（横山）の山上に防御施設として陣屋の建設を命じられました。このように時代や状況は異なりますが、森脇家は城や館など防御施設の設計や築造に関する仕事を得意としていたことが分かります。こうしたつながりに気付くと、また歴史を考える楽しみ方が増えるかもしれません。

いわくにちようこかん 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館
住所：横山二丁目7-19 ☎(41)0452
休館日：月曜（祝日の場合はその翌日）

10月23日(日)まで企画展「岩国武士の家族史」を開催しています。

※1 他の森脇家と区別するため、便宜上幕末時点の当主名（主税）を付した
※2 戦時において兵士が臨時に詰める場所

写真…森脇主税家系図



岩国市 人口・世帯

人口 129,146人【前月比 +55人】 男性 61,544人 女性 67,602人

世帯 65,415世帯【前月比 +81世帯】 ※外国人人口を含む(2022年9月1日現在)

交通事故発生件数

8月分事故件数 21件(134件) 死者数 0人(0人) 傷者数 25人(153人)

※高速道路発生分を除く。()内は2022年累計

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。
お問い合わせは、広報戦略課 ☎(29)5016 FAX(21)3337